

学生たちへの激励のメッセージ

都留文科大学特任教授・グラウンドワーク三島専務理事・渡辺豊博

新型コロナウイルスの感染の影響も受け、まだ、就職先が決まらない、学生たちが、私が勤務する都留文科大学にも沢山います。私が指導している4年ゼミ生たちも、就職活動に悩み、苦しんでいます。すでに、何社も受けたが、内定をもらえず、自分自身に自信を失い、精神的に落ち込んでしまっている学生たちもいます。

いくら、現実的な社会情勢が厳しいとはいえ、学生たちに対し、面接時において、各企業の人事担当者の対応や言葉使い、具体的な扱いなどの様子を聞いてみると、大変、失礼な対応が多いことにも驚きます。

「君は世の中を甘く考えている。まだまだ厳しい現実社会に適応できる精神年齢には至っていない。言葉使いが子どもっぽい。大学卒の割には専門性が低い。英語力が余りにも弱くて大学で何を学んできたのか。大人としての見識と判断力の脆弱性を感じず。私たちの企業に就職しようとする意思や目的が不明確だ。君たちの親はどんな教育をしてきたのか。」など言葉の暴力に近い、言いたい放題の対応を耳にします。

発言の内容を精査・分析すると、就職時において採用予定の学生に対し、人間的な評価や採用の有無の判断を行うために必要な発言内容だとは思えません。本人の個性や人格を否定し、採用不可にするための恣意的な失礼な発言ではないかと考えています。

学生たちは、今後の日本社会の中で、社会人として、精一杯働き、税金を納め、家族を養い、子どもたちを産み育て、社会的な役割を果たし、高齢者を支えていく、大切な主体者・後継者です。

このような将来を託す重要な若者に対して、現実社会は、余りにも過酷な対応に終始しています。確かに多くの企業は、今回の新型コロナウイルスの影響を踏まえ、経済的に追い詰められ、人件費を中心として、各種の経常経費の節減を大胆に実施しなくてはならない厳しい事情を抱えていることは、ある程度は理解できます。

しかし、何万人もの大学生が、未就業になってしまう現実を鑑みると、やはり、人材の受け皿としての社会体制があまりにも未成熟で無責任だと思います。世界を広く見ても、日本の明治維新の動きを見ても、多様な人材育成に対する施策や具体的な取り組み、社会体制などは、充実し、手厚いものがありました。まさに、日本の現在までの高度成長を支えてきたのは、先進的で多様な教育システムの実効性に依るところが多いと思います。当然、人材の受け皿として、さらに、社会人・企業人の教育の担い手として、企業の役割も大きいものがありました。

松下幸之助は、松下電器が企業化し大きくなった頃、不景気が来た時に解雇に断固反対して、現状の雇用を守り、若手職員の雇用確保を断行しました。余剰人員を抱えている中で、どんな対応をしたのかというと、余剰人員の生産部局から営業部局への配置転換と機能強化を図り、若手職員には時間をかけた熟練工からの技術移転・教育と新規商品の研究開発に当てたのです。

その結果的、職員の意思が松下電器に一体化・共有化して団結力が高まり、生産性と開発力、営業力が格段に向上したとのことです。まさに、人材とは間違いなく企業の財産であり資源です。人材育成を怠らず、人材を大切に、人材確保に対して景気の有無に左右されず、資金投資する企業は、結果的には成長することを実証しています。

人を育てられない、大切にできない企業は、目的を失った、利益至上主義の盲目的な利益集団、収奪集団としか思えません。最近、企業の総会において、社長を始めとした役員の子供の年俵が発表されたが、何億円もの高額な給与を受け取っている人が多いことに驚きました。

私見ですが、この資金の減額分により、一定割合の若手職員の雇用確保を図ってもらいたいし、人材育成のための研修制度や経済情勢に影響されない人材確保のための基金造成なども進めることができるはずです。個人的には、こんなにも高額な給与を得て、どんな贅沢をしたいのか理解できません。

所詮、他人の財布の使い道の是非論ですが、ビル・ゲイツなどの社会的企業家の活動実態と比較すると、人間的な貧困性を感じ得ない。個人的なお金への執着は、私は貧乏人ですが、理解不能です。しかし、企業人としては、まずは、学生たちへの雇用機会の拡大と場づくりへの取組みを期待します。

ほとんどの経営者は、先輩に育てられ、今の立場があるのだと思います。会社大切・株主大切・利益維持大切の本音は分かりますが、ワークシェアリングを始めとした、今日的な資金配分、役割分担の経営努力や工夫を行い、人材の受け皿の確保を進めて行ってほしいと思います。

大学生たちも、今の厳しい現実には負けず、永き人生の中で、例えば、一つの試練の時期だと考え、自信を失わず、何事にもめげずに、いろいろなことに前向きに取り組んでももらいたいです。結果的には、今年、就職が難しかったら、自分自身を見つめ直す、自分探しの時間が確保できたのだと前向きに考えて、多様な体験や経験プログラムの蓄積に取り組んでいったらいいと思います。

例えば、英語力の格段の強化、教職や行政職合格のための予備校への入学、簿記や不動産取引などの資格取得のための専門学校への入学、NPOや農業、企業などでの長期インターンシップの体験、海外旅行などに挑戦していると、多分、一年間は、すぐに過ぎてしまうと思います。

この間に、自分探しを着実にやることによって、今後の人生行路・羅針盤・方向性を明確にできます。今度、就職活動に取り組んだ時には、面接時を含めて、自分の立ち位置が明確化して、自信に満ちた対応が取れるはずです。人生は長いです。慌てて、少しねじれた不本意な人生行路に突き進むと、いつかは無理と歪が起きます。確かに、不安要因を抱えたままに就職していくことも間違っていないと思います。少なくとも、十年間程度は、就職した職場において、しっかりと耐え、専門性を身につけ、社会人・企業人として成長して行ってもらいたいです。

しかし、地域や弱者に対しての世の中の不合理性や理不尽性などへの素直な怒りの気持ちは、劣化させずに、新たな社会的課題解決に取り組んでいてもらいたいです。若者には、無限の可能性が潜在的に内在しています。「捨てる神あれば拾う神あり」「至る所青山あり」です。

思考の時間や多様な経験知は、今後の人生にとって無駄になるものではありません。他人の判断や画一的な試験結果に影響されずに、自分自身の個性や特性をさらに向上させて、活かしていく道や手段を、めげずに模索してもらいたいです。

グラウンドワーク三島は、迷える子羊たちを何時でも大歓迎します。清冽な富士山からの湧水に浸かりながら、いろいろな人生経験者との話し合いなどを通して、ゆったりと、自分探しができる好条件の素敵な環境だと思います。就職活動などで、疲れている若者・大学たちは、グラウンドワーク三島に気軽にお立ち寄りください。

「仕事」って何だろう？

よく、NPOは、「馬鹿らしくて、あほらしくて、儲からない仕事だ」と言われます。それでは、NPOやボランティアに関わっている人々が、何故、こんなにも非生産的で他人に褒めてもらえない仕事を満足な給与ももらえずに、時間や精神的・金銭的負担、家族からの批判、他人からの中傷などを受けながら、耐え、活動や仕事を続けているのか、いこうとしているのでしょうか。

私も30年間にわたり、三島ゆうすい会やグラウンドワーク三島、富士山クラブなどの市民活動団体に関わり、活動や組織の主要なマネジメントの部分を担当してきましたし、現在もバリバリに担っています。しかし、今までも、今も、いわれなき、理不尽な批判や誹謗中傷を、多様な主体者から受け続けており、何ともいえない重苦しさを感じ、悩みは尽きません。特に、折々に意気投合し、共有の夢を語り合い、同士としての永遠の絆を交換したはずの人々からも間接的で遠まわしの批判や誤解を受け、さらなる精神的な負担とダメージは大きいものがあります。

こんな苦労や重い十字架を背負いながらも、何故、お金にもならない仕事を続けているのか、私自身も不思議に感じています。しかし、ある講演会での参加者の発言を聞いて、その理由が僅かながら解けました。やはり、「他人のために働くことの達成感や充実感が得られる仕事だから頑張っている、頑張ろうとしているのではないか」と考えています。お金や給与の多寡だけでは、人は自分が任せられた仕事に永遠に満足できないと思います。

参加者の発言として、「自分も自殺経験者だから自殺者防止の仕事を起こしたい。自分の子どもが障害者だから障害者のための自立施設を起こしたい。ふるさとに若者を呼び戻したいので、自分がふるさとに帰りお店を起こしたい。荒れた山々をトラストして、鳥たちとの共生ができる山村振興に取り組みたい。津波回避のためのシェルターを広めたい。宅老所と保育園を併設した施設を起こしたい。キャリアを捨てて農業の再生に取り組みたい。」など、彼らの創業への夢と挑戦には限りがありません。

現在、仕事に就いている人々も、日々の仕事に疲れ、何のために働いているのか不安になり、自分を見失い、自信を無くし、将来の道筋が描けず迷っている人が多いのではないかと思います。しかし、実社会の状況は、皆、多様な課題を抱え、苦しんでいる人々だと思えます。そんな厳しい状況なのに、次なる新たな仕事への取り組み姿勢は、社会性・公益性にあふれて献身的で勇気のある考え方だと思えます。

普通なら、未就業者で自分の生きる方向性すら明確に決められない、迷える子羊程度のいい加減な人間と見られても仕方がない境遇の人々です。しかし、彼らの将来の仕事に対する考え方は、社会的な弱者のために自分を犠牲にしてまでも働きたいと考えている、心優しい、思いやりにあふれた弱者目線の人々なのです。

社会や地域がいろいろの社会的なインパクトに襲われ、停滞していようと社会の歪に隠された社会的な課題に対し、勇気と情熱を持って取り組もうとする、若者や女性、高齢者が、全国各地には存在しています。強い問題意識や新たな組織と仕事を創りだそうとする意思と意欲は、人を強くして、自分が求めている、自分に適合した仕事とは何かを暗示しています。

今の仕事が合わなくなり、新たな仕事を給与や処遇、福利厚生など労働条件により探そうとする人は一般的です。その考え方は、否定はしませんが、そんなことではなく、「自分自身の特性や特技、専門性、将来の夢」な

どをもう一度、見つめ直してみても、その中から、何が今、自分として足りないことなのか、何のために生きていくのか、働くとは何なのかなどの生き方の基盤・足元を明確化する必要があります。無いと模索の迷走が始まり、ゴールが見えず、虚無の時間がただ経過していき、自分を見失ってしまいます。

自分に合わないと感じている仕事は、もしかすると、給与や環境が良くても、長い間には満足できなくなってしまう。何事も自分の特性や個性が、より以上に活かされ、発展的な今後の人生を切り拓いていく経験知として蓄積できるような仕事を見つけることが大切です。

しかし、現実的にはお金を得て、生活を守っていかなくてはならないわけですから、今の仕事も、いろいろを我慢しながらも、ある期間は絶対に続けるべきです。そして、次なる仕事に向けて、資格の取得や専門性の研鑽、NPOやボランティア活動の体験、多様な人々とのつながり、自分自身の見つめ直しなどに前向きに取り組む、長期的で戦略的な人生設計が必要とされます。

とにかく人の一生は長い。現状の不満足状態に負けずにめげずに積極的にいろいろな場所や現場に出かけて行き、自分の可能性や問題意識を明確化してもらいたいと思います。もしも、さらに厳しい環境の中にいたとしても困難を乗り越え、他人や地域のために働きたい、創業したいと希望している人々が、世の中には沢山いて賢明に頑張っています。何事も上手いき、生活や人生に満足している人は、世の中には少ないと思います。現在の自分の境遇に不満や不安を抱いても何も解決しません。

私に関わるグラウンドワーク三島の職員たちも、日頃から献身的な仕事ぶりやチームワークを発揮してくれて多難な仕事に上手に対応してくれていると感謝しています。しかし、この苦しく、疲れる仕事の連続と人生経験を、今後、彼らがどのようにとらえ、活かしていくかが問われています。

「不平不満を優先するのか。貴重な体験ととらえるのか。自発的な仕事への取り組みを学べる機会とするのか。過酷な労働に過ぎないと思うのか。」など考え方は人様々です。私なりの期待と解釈としては、主体的で懸命な取り組みを進め、それが成功して好結果を生み出したなら密度の濃い経験ができた前向きに捕らえてもらいたいと思います。

これこそが、仕事の「醍醐味」であり、仕事を通して自分自身の能力的・精神的な強さを育成していく「経験知」になるものです。熱き、人々の新たな仕事に対する、情熱的な意見や考え方などを直接的に聞くことは、今後の自分の仕事への取り組み姿勢を見つめ直す、絶好の機会になるはず。絶好の機会になるはず。

仕事とは「人生修業」なり

毎日、とにかく暑い日が続く。グラウンドワーク三島では、土曜日や日曜日を中心に、ボランティアやインストラクターの皆様の協力・支援を受けて、さまざまな現場において、多様な実践活動を展開しています。例えば、最近、農業関係では、耕作放棄地を活用した箱根西麓の農地において、そばの種を植えました。また、三島市の最南端に位置する御園地区の農地においては、大豆と薬草のミシマサイコを植え、地域住民の応援も受けて、灼熱の最中、熱中症にも負けずに、懸命な作業が続けられました。

だが、これらの農業作業に伴う最大の課題が、日頃の草取りなどの日常的な管理作業です。農業の楽しさや面白味は、さまざまな報道を通してPRされていますが、その足元・日常性の裏に隠されている農家の苦労は、半端なものではありません。

小さな自宅の庭の芝生の管理すらできない私ですが、何千平米もの広大な農地の管理作業には、時々参加をしていますが、作業後は、疲れ果て、その日の夜は何もできなくなってしまいます。グラウンドワーク三島としても、農業再生への挑戦を続けていますが、その活動の継続性を担保するには、多くの苦労が伴い、人材の確保を含め、大きな課題を抱えています。

現在、元農協に勤務していた方に、グラウンドワーク三島の農業アドバイザーに就任していただき、農作業の段取りや肥料・農薬の散布方法、農機具の使い方などについて指導いただいています。これらの作業を直接的な担当にしている職員は、地域活動に関わるメンバーたちであり、日頃の内業とともに、現場での外業もこなさなくてはならず、大変な業務を強いられていると思います。

しかし、これらの業務を問題なくこなしていくことが、現在のグラウンドワーク三島の職員の仕事であり、どのような方法や支援体制を整えれば、仕事が円滑に遂行できるようになるのかを、自発的・主体的に創意工夫していくことが、任せられている仕事だと思います。

当然、全国的な人材育成の仕事に関わる職員には、地域活動の職員とは違う、主たる仕事が課せられているので、日常的な範囲での支援を期待することはできません。限られた人材と支援者を前提条件として、より以上の仕事を展開するためには、今、何が求められているのかを的確に判断し、課題解決の工夫や対応を迅速に処理していく、独自の能力と行動力が個々の職員には問題意識として必要とされています。

いつも、仕事を受け身の立場、使われている立場で考え、何事にも対応していると、日常的な活動の中で発生する小さな課題（今後、大きな課題に増幅・変身していく課題）に対して、的確で迅速な事前の対応が取れなくなってしまう。このような逃げの姿勢では、もしも仕事を変えても、同様の課題が再度、襲いかかってきた時に、また、逃げの姿勢を繰り返すことになり、現実的な「課題解決力」を永遠に身につけることはできず、真の「仕事人」には成長することはできません。

懸命に支援してくれる関係者の真意や意向を汲み取り、その是非を判断し、より多くの情報収集を実施することにより、的確な処理方法や対応方法を見つけ出ししていく必要があるのです。また、新たな支援体制の構築を模索し、そのための取組みを工夫し、組織的・資金的な合意形成を図るとともに、長期的な計画のもと、戦略的に着実に課題解決に向けた取組みを推進していくことが必要不可欠です。

このようなやや難しい対応方法が、関係職員との度重なる議論を踏まえて、職員一人一人の問題意識や具体的な行動形態として、提案、実現できるものであろうか？NPO組織に勤務する職員であろうとも、企業や行政に勤務する職員であろうとも、任せられた仕事に対する取組み姿勢や具体的な対応姿勢は同様のものだと思います。

多様な支援者や関係者との議論、会話を通して、自分の意見が理解されず、相手も現実の実情や困難性を無視した不条理な意見を激しく述べた時に、冷静に対応して、今後の仕事の中において、さらなる解決への取組みを的確に判断・処理できる能力を養うことができるのでしょうか。

とにかく、まずは我慢することが先決・大切です。一時の感情的な考え方や行動は、将来的には、大きな間違いと禍根を残すことになります。ひたすら、相手の批判や罵声、意見を耐えて聞き、自分の今までの対応姿勢を総合評価した後、その問題点を探りだし、改善に向けた努力を着実に継続していくしか、根本的な解決方策はないと考えています。

私も、今までいろいろと大きなプロジェクトを先導してきました。しかし、その度に、多種多様な困難や障害、苦労や心労が、繰り返し襲ってくる経験をしてきており、嫌気も感じています。やはり、現実的にお金が関わると、より以上に事柄が難しくなり、単純な事柄も混迷を極めます。

以前、仕事で静岡県の空港対策課に勤務して、5年間にわたり、用地交渉や生活生業対策に関わってきましたが、その時も、同じような心労と嫌気を感じました。しかし、その時は、とにかく誠心誠意、相手の意見を聞き、多様で創造的な県としての代替農地対策を立案・実施することにより、最終的には難局を乗り越えてきました。今では、昆尾地区・切山地区など、150haにもわたる先進的な農地開発地区が完成して、近代的な農業経営が空港との共存により営まれています。

次々に課題や問題が発生する仕事とは、「人生修業」の道だと思います。山にこもる修験道と同じであり、修業の現場が「娑婆」であり、お金をもらえて人生トレーニングできる格好の「大人の学校」ともいえます。こんな素敵な条件で日々の仕事ができる幸福に感謝すべきだとも考えています。

いろいろな立場で日々の仕事に頑張っている人々は、世の中にたくさんいます。しかし、現実的な仕事をこなすことは当然大切なことですが、仕事の中から発生した課題や気がついた改善点などに対して、さらなる、挑戦や取組みへの積極性・提案も求められています。

仕事とは、自分の個性や考え方を表現する「踊り場」です。難局への課題解決力を育成して、取組み経過の中から、より強靱な忍耐力や判断力、行動力が磨かれていきます。単純で同様の繰り返しの中からは、創造的でワクワクするモチベーションは生まれてきません。冷静にして、戦略的な対応姿勢や考え方の中から、心と思考の訓練がなされ、人間は真の仕事人に成長していくものだと確信しています。

仕事とは、ご飯を食べていくためのものだけでなく、人間としての人格形成や地域社会の変革者としての社会的使命も課せられているのです。大きな視点と目標をもって、日々、単純で嫌気のさす仕事だとは思いますが、真剣に真摯に仕事に対して取り組んで行ってもらいたいです。

私自身も今後とも、いろいろの課題発生が続くと考えていますが、痛風発症の潜在的な恐怖心を振り払い、美味しいビールが飲めるように、積極果敢に多様な課題に取り組んでいく覚悟ができていると言っておきます。